

但馬牛種雄牛の防疫体制の強化に向けた新たな施設整備の概要

当センターでは、但馬牛を口蹄疫等の重大家畜伝染病から守るために、北部農業技術センターを中心とした種雄牛の分散配置を軸として、新たな施設整備による強固な防疫体制を整備した。ここでは、「但馬牛遺伝資源保管対策事業」で整備した畜産技術センターにおける施設の概要を紹介する。

1 検定牛舎（写真1）

整備前は、種雄牛の後代検定の目的で肥育する検定牛の大半を畜産技術センター、北部農業技術センター及び農業大学校で飼育していたが、検定牛は一般農家からも導入するため、病原体を持ち込む危険がある。そこで、畜産技術センターに検定牛舎を新設し、検定牛を集約することで、病原体の侵入リスクを軽減するとともに、これまで曖昧になってきた畜産技術センターと農業大学校の衛生管理区域の境界を明確化して、防疫体制を強固なものにしている。

2 飼料・資材搬入施設（写真2）

整備前は、乾草等の飼料やおが屑等の資材は配送車が直接、衛生管理区域内の保管場所に搬入していたが、輸入飼料は特に流通の過程で病原体が付着する可能性があり、直接搬入は病原体が侵入するリスクを伴う。そこで、衛生管理区域との境界に飼料・資材搬入施設を新設し、飼料・資材は一旦、ここに降ろし、一晩オゾンによる消毒を行った後、搬入することとしている。



写真1 検定牛舎

3 更衣・消毒施設（写真3）

整備前、職員の更衣は衛生管理区域内にある管理棟で行っていたが、防疫体制を強化するために、更衣・消毒施設を新設した。これにより、職員が脱衣、エアシャワーとミストによる全身消毒を行った後、衛生管理区域内に移動し、専用作業服を着用して作業を行う一連の動作をルーティーン化している。また、口蹄疫等の国内発生時には、シャワーで体に付着している可能性があるウイルスや細菌を洗い流した上で、専用作業服を着用して作業を行うこととし、人による病原体持ち込みの防止を図っている。

岩本 英治（北部 畜産、前家畜部）
（問い合わせ先 電話：0790-33-9710）



写真2 飼料・資材搬入施設



写真3 更衣・消毒施設